

学校法人攻玉社学園 他山の石以って玉を攻くべし

創業
154年

開校：1863（文久3）年
所在地：東京都品川区西五反田5-14-2
電話番号：03-3493-0331

代表者：学校長 今西 理朗
教職員数：131人
URL：http://www.kogyokusha.ed.jp/



左 校舎正門

中 創立者・近藤真琴先生像

右 資料展示室にある著名な卒業生の肖像

我が社の
百年譚

時代が求める人材を世に送る

1863（文久3）年に、鳥羽藩士だった創立者・近藤真琴先生が外国を「他山の石」に見立てて起こした蘭学塾がルーツです。現在、「時代が求める人材を世に送る」べく、完全中高一貫の普通科のみですが、明治～昭和にかけては航海術や測量術、女子科、土木科、商業学校など、さまざまな学校を設置していました。1923（大正12）年の関東大震災で、現・港区浜松町一丁目にあった校舎が壊滅的な被害を受けたため、その2年後に当地に移転。以来92年にわたってこの西五反田の地で教育活動続け、中には祖



左 創立者の肖像等の展示

右 昭和40年代の航空写真

父の代から三代続けて学んだ人もいます。また、1931（昭和6）年から43年間、商業学校（のちに商業高等学校）が開設されていたことから、武蔵小山や戸越などの区内の商店街にも本校出身者が多く、地域の商業活動に貢献しています。創立者の遺訓・建学の精神や校訓「誠意・礼譲・質実剛健」を身につけさせる人間教育と、生徒全員の難関大学進学を実現させるための学習教育を両輪として、快適な教育環境を備えた都内屈指の進学校を目指しています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



中学校教頭
内海 宏隆

「六年制少数英才開発教育」により差別化

第一次ベビーブーム生まれの生徒が卒業した1965（昭和40）年頃、多くの私立中学・高校は志願者数の減少に頭を悩ませました。本校も例外ではなく、その打開策として「六年制少数英才開発教育」を打ち出し、進学校を標榜しました。その後、校内暴力の問題や、都立高校の大学進学実績の停滞などにより、私立中学受験に注目が集まりました。本校も徐々に志願者が増加し、進学校としての実績を重ね、相応の評価を得るようになりました。半世紀前に中高一貫教育の先鞭をつけたのは英断だったと思います。

地域とともに

■地域の社会奉仕活動続けるボランティアクラブ

本校には地域の奉仕活動をするボランティアクラブ（以下「VC」）があります。前身のインターアクトクラブ（以下「IAC」）から25年以上活動しています。「IAC」は、地域のロータリークラブと提携し、赤い羽根やあしなが育英会の募金

を駅頭等で行っていました。「VC」になってからは、学校近隣の氷川神社の清掃をするなど、より積極的に活動しています。自主的に地域に貢献することが校訓「誠意・礼譲・質実剛健」の実践となり、生徒たちの成長につながっています。



学校法人立正大学学園

真実を求め人類社会の
和平の実現を念願する

創業
145年

開校：1872（明治5）年
本社所在地：東京都品川区大崎4-2-16
電話番号：03-3492-2681（品川キャンパス）

代表者：理事長 古河 良皓
教職員数：589人
URL：http://www.ris.ac.jp/rissho_school/



左 立正大学品川キャンパス正門
中 建学の精神が刻まれたモニュメント
右 本学の名称は日蓮聖人の『立正安国論』に由来



僧侶の教育機関から 総合大学へ

本学のルーツは1580（天正8）年に千葉県に開設された飯高檀林（日蓮宗の教育機関）にさかのぼります。独立した教育機関として、本学の起点とするのは1872（明治5）年に現・港区高輪に設立された小教院で、立正大学として一般学生にも門戸を開いたのは1924（大正13）年のことです。1949（昭和24）年には学校教育法により新制大学として認可され、その2年後には財団法人立正大学から現在の学校法人立正大学学園へと改組されました。当初は文学部と仏教学部のみでしたが、次第に学部学



左 1924（大正13）年頃の大崎校舎本館外観
右 1926（大正15）年頃の大崎校舎全景

科を増やし、現在では品川キャンパスのほか、埼玉県熊谷市にキャンパスを構え、8学部15学科7研究科で1万人が学ぶ総合大学に成長し、安定した学校経営を行っています。本学では、校名の由来である日蓮聖人の『立正安国論』に基づき、『正しき』を立て、国や社会、人々の安寧・和平の実現のために尽す」という社会的ミッションを掲げています。これは、仏教に限らない普遍的価値だと私たちは考え、社会一般に広く伝えることを目指しています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



理事長
古河 良皓

戦後の経営危機を救った石橋湛山学長

戦後の昭和20年代、戦災や志願者減少などで財政基盤がゆらぎ、学校の存続が危ぶまれました。そこで、ゆかりのある人材の協力を得ることで立て直そうと画策。第一次吉田茂内閣で大蔵大臣を務め、後に内閣総理大臣になる石橋湛山先生を1952（昭和27）年に学長として迎えました。その後16年間、先生自身も教壇に立って金融論を講義するなど、教育にも携わりながら大学経営にあたりました。それが功を奏し、本学は健全な財政を回復して規模を拡大し、総合大学へとステップアップできました。

地域とともに

品川区と連携し、地域に貢献

立正大学は品川区に唯一の総合大学として、2013（平成25）年に区と連携・協力に関する協定を結びました。区の放課後児童健全育成事業「すまいるスクール」で、学生が子どもたちの指導をする協定のほか、災害時に学校施設を避難所とし

て提供する協定などが締結されています。もともと1979（昭和55）年から区民に向けた公開講座を開いていた本学は、地域社会に開かれ、貢献することを是としていましたので、双方の思いが一致した取り組みとなっています。



学校法人三浦学園 建学の精神「愛」「和」「誠実」

創業
114年

開校：1903（明治36）年
本部所在地：東京都品川区豊町2-16-12
電話番号：03-3786-1711

代表者：理事長 三浦 洋義
職員数：154名（非常勤含む）
URL：<http://www.miuragakuen.ac.jp/>



左 大正14年に建てられた日本音楽高等学校1号館

中 バレエレッスン室などがある日本音楽高等学校2号館

右 1号館内にある個人レッスン室

我が社の 百年譚

数多くの音楽教育者を輩出する わが国初の私立音楽学校

1903（明治36）年に山田源一郎が音楽遊戯と幼稚園教員の養成を目指して設立した、わが国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」がルーツです。その3年後に組織化した学校教育を始め、1927（昭和2）年には男女共学の日本音楽学校としてスタートを切りました。戦中には当時中野にあった校舎が陸軍に接収されることになりましたが、山田政三第3代校長が大森高等音楽院長の三浦泰に事業を託し、学校を存続させました。三浦泰は1944（昭和19）年、学校法人三浦学園を設立して初代理事長となり、1947（昭和22）年に校舎を現在の品川区豊町に移した後、附



左 創立者・初代校長
山田源一郎

右 現在地に最初に建てられた
校舎（昭和20年代）

属幼稚園や小・中・高等学校を設置。さらにその後、中学校音楽教諭、幼稚園教諭、保育の養成科をそれぞれ設けて体制を整え、数多くの音楽教育者、幼児教育者を輩出してきました。2009（平成21）年には有明教育芸術短期大学を開設し、日本音楽学校を発展的に解消。現在は同短期大学、日本音楽高等学校のほか、幼稚園と保育園を併設し、「愛」「和」「誠実」という建学の精神の実践に努めています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の 道標



2代目理事長
三浦 洋義

度重なる災いを音楽教育への愛で乗り越えた

1923（大正12）年、関東大震災による火災で校舎が再び全焼しました。その危機に教職員が総力で立ち上がり、関西各地で「女子音楽学校復興資金募集演奏会」を開いて回り、再興を図るための寄付を集めました。また、東京への空襲がひどくなった太平洋戦争末期、初代理事長の三浦泰がピアノ数十台をはじめとする貴重な楽器類を、大変な苦勞をして疎開させました。そのおかげで戦後すぐに音楽教育の普及に携わることができました。当学園には、このような音楽教育への愛が代々受け継がれています。

地域とともに ■ 地域に開かれた教育を実践

日本音楽高等学校の恒例行事となっている総合学習上演発表「サウンド・オブ・ミュージック」を地域の皆さんに公開しています。2017年で15回目を迎えたこの催しは、教育成果の発表のみならずミュージカルへの関心を高める啓発活動となっています。また、「シ

ンデレラへの道」と本校生徒が命名したボランティア活動を15年間継続して行っています。荏原第五地区連合会の方々と地域清掃活動や、荏原警察署・防犯協会と協力した「痴漢撲滅キャンペーン」などの防犯啓発活動に取り組んでいます。



創業

106年

創業：1911年（明治44年）
本社所在地：東京都品川区荏原2-4-41
電話番号：03-3786-1011

代表者：理事長 大谷 卓男
従業員数：130名
URL：http://www.hoshi.ac.jp/



左 座席数1228のメインホール
中・上 星薬科大学本館正面
中・下 「近代日本の名建築」に指定された本館
右 新館内観

我が社の
百年譚

薬学を通して 生命と健康を守ることを目指す

本学の創立者である星一は、1906（明治39）年にアメリカから帰国し、星製薬所を発足。その後、星製薬株式会社を設立し、社内に教育部門を設けて教育を始めたのが当校の始まりです。1922（大正11）年、現在の住所に星製薬商業学校を設立し、以降も時代の流れとともに薬学を教える学校として規模を拡大。1950（昭和25）年に「星薬科大学」となりました。帝国ホテルなどの建築を手がけたフランク・ロイド・ライトを師とするアントニン・レーモンドが1924（大正13）年に完成させた記念大講堂は、関東



左 創立者 星一
右 野口英世と星一

大震災や世界大戦を乗り越え、現在も「本館」として大学のシンボルになっています。戦後、経営難に見舞われた時期もありましたが大谷米太郎（ホテルニューオータニ創業者）によって経営が引き継がれ、本学は存続することができました。2011（平成23）年に創立100周年を迎え、「世界に奉仕できる人材の育成」という建学の精神に基づき、今日も伝統と先端研究によって新薬の種が誕生しています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



理事長
大谷 卓男

医療の発展・教育への情熱

戦時中、空襲で本学の寄宿舎や実験室、木造校舎の一部が焼失しただけでなく、戦後には本校舎がアメリカ進駐軍により接収され、授業を続けるのが困難な状況でした。しかし、五反田の星製薬工場内に仮校舎を構え、約500名の学生の教育を継続させ、また1946（昭和21）年には全国に先がけて初めて男女共学制を採用し、学問の世界で男女平等の思想を掲げました。どんな状況下でも教育への情熱を持ち続け、医療の発達に生涯を捧げた創立者の理念を、現在まで大切にしています。

地域とともに

公開講座や薬草見学会を開催

品川区との共催で毎年さまざまな公開講座を行っています。春と秋に開催する「薬草見学会」は、専門家による身近な薬草についての講演だけでなく、大学構内にある文化施設や薬用植物園を在学学生が案内するキャンパスツアーも用意。地域の

皆さんに薬草や製薬に親しみを感じていただけるイベントとなっています。都内でも数少ない植物園は、約3,000㎡の広さに薬用を中心とした有用植物約1,000種が栽培されています。平成27年度は地域住民の方を含め568名が来園されました。



製造業(みそ製造)

八木合名会社仙台味噌醸造所

仙台藩士が愛したみそを
現代に伝える



創業

392年

創業：1625（寛永2）年
資本金：200万円
本社所在地：東京都品川区東大井4-1-10
電話番号：03-3474-0505

代表者：代表社員 八木 忠一郎
従業員数：不掲載



仙台藩ゆかりのみそ醸造所
現在も昔ながらの製法で
事業を続ける

この地はもともと、伊達政宗公を藩祖とする仙台藩の江戸下屋敷でした。当社のルーツは、そこに詰めた仙台藩士たちのために建てられたみそ醸造・備蓄設備にさかのぼります。時代が下って幕末頃になると、余剰分を一般に販売するようになり、商売の性格を持ちはじめました。明治維新後、みそ醸造所は八木家に払い下げられ、1902（明治35）年に合名会社としました。現在も昔ながらの製法による仙台みそ「五風十雨」を主力として醸造・販売を続けています。跡継ぎにも恵まれたので、これまで培ってきたものを活かしながら、敷地を活用した不動産経営ともども、奇をてらわない堅実な経営に努めていきます。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



代表社員
八木 忠一郎

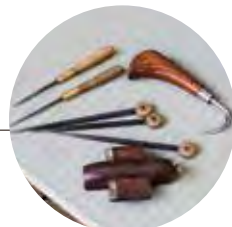
取り壊された貯蔵庫跡を収入源に活かす

戦時中に空襲の被害はなかったものの、軍によって仙台坂トンネルの予定地として敷地を貫く道路が計画され、昔からの貯蔵庫が取り壊されたところで終戦を迎えました。みそ醸造事業を縮小せざるを得ませんでしたが、更地のままだった土地を駐車場とし、現在も収入源として併営しています。

製造業(畳製造)

有限会社加藤畳店

14代、250年以上続く
北品川の老舗畳屋



創業

256年

創業：1761（宝暦11）年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区北品川2-9-27
電話番号：03-3471-3968

代表者：加藤 文幸
従業員数：2人
URL：<http://kato-shinagawa.com/>



品川宿の「湊屋」から「加藤畳店」に
代々受け継がれる手縫いの技術

1761（宝暦11）年に「湊屋」という屋号で創業しました。それから250年以上、品川宿ゆかりの当地で畳屋を続けています。明治以降は加藤畳店と屋号を改め、一般家庭のほか、旧東海道沿いの寺社や品川浦の屋形船、料亭などを顧客にしています。もらい火事で何度も店舗が全焼しましたが、そのたびに店を立て直し、現在に至っています。今も畳はすべて手作業で制作。それを可能にするのが代々受け継がれている手縫いの技術で、うちの強みです。道具も先代の物を受け継いでいます。15代目になる息子はもともと内装工事を学び、手がけていました。4年前に畳屋を継ぐ決心をして職業訓練校に通い、今年から店に出ています。経験を積んで地道に腕を上げ、どんな仕事でも臨機応変に対応できる職人に育ってほしいです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



14代目
加藤 文幸

畳の需要減を補うため、二本柱体制に

1960年代以降、洋室志向が強まる中で畳の需要が減り、仕事の先行きが怪しくなりました。そこで当時の事業主だった父（13代目）は、思い切って内装工事業に手を広げました。結果的にこれが当たって畳と内装の二本柱となり、売上を相互に補い合うという体制が出来上がりました。

製造業(畳製造販売・修理)

有限会社畳松岡

仙台藩下屋敷の
お抱え職人が原点



創業
238年

創業：1779 (安永8)年
資本金：350万円
本社所在地：東京都品川区南品川2-8-25
電話番号：03-3471-8060

代表者：取締役社長 松岡 清隆
従業員数：2名



我が社の
百年譚

受け継いだ「丁寧な仕事」が
顧客をつなぐ

初代・久米次郎は伊豆半島の下田出身ですが、江戸で仕事を見つけようと、船で品川までやってきました。そのとき弟子入りしたのが畳屋で、修行後、独立して「畳屋 久米次郎」を興しました。久米次郎は名人といわれるほど腕のよい職人で、品川にあった仙台藩下屋敷のお抱え職人だったと曾祖母から聞いています。現在の店名にしたのは5代目からですが、名字ではなく屋号として掲げたのが先なので、「松岡畳店」ではなく「畳 松岡」としています。代々、職人として大切にしてきたのは、とにかく丁寧な仕事をする。これまで畳屋を続けてこられたのは、この辺りの地域が戦災や震災を免れ、昔からのお得意様が定着していることと、当店の仕事を評価してくださったお得意様が新しいお客様を紹介してくださったからです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標

畳一筋に打ち込んだ職人魂

昭和の半ば以降から、床にじゅうたんを敷き詰めたマンションが流行しました。それが近年、最も畳の需要が減った時期ですね。しかし、それに流されて他の仕事に手を広げず、地道に昔からのお得意様に対して質の高い畳を提供し続けてきたことが、大きな打撃を回避できた理由だと思います。



7代目 取締役社長
松岡 清隆

小売業(各種食料品小売)

株式会社平野屋堀江商店

商売だけでなく、
まちづくりの視点も大切に



創業
217年

創業：1800 (寛政12)年
本社所在地：東京都品川区南品川2-7-12
電話番号：03-3471-7495

代表者：代表取締役 堀江 新三
従業員数：50人
URL：http://www.aoyoko.ch/hiranoya/



我が社の
百年譚

酒屋からスーパーマーケットに
競合店の進出に地域の力で対抗

200年以上前から、天妙国寺門前町の藤八商店として当地で商いを続けています。かつては酒屋で、戦前は卸もしていました。戦後、このあたりには海外向けの豆電球工場が建ち並び、各100人以上の従業員を抱えるほどの賑いでした。そのような工場相手に酒や乾物類などを小売していたのですが、工場が減り、業態を変える必要が出てきました。そこで、1960 (昭和35) 年に当時はまだ珍しかったスーパーマーケット形式にしました。私が継いだ昭和50年代には店舗を改築し、倉庫をなくして売り場を広げると業績が大きく伸びました。しかし開発が進むにつれて大手の競合店が進出し、赤字覚悟の安売りで対抗するなど厳しい競争が続いています。長年かけて築いてきた地域のつながりを味方にして、攻めの姿勢を忘れずに頑張っています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標

地域のつながりに何度も救われた

私は商店街振興組合の理事長のほか、町会の会長やまちづくり協議会会長などを務めてきましたが、そこで築いた地域のつながりによって救われたことが何度もあります。今後も生き残っていくためには、商店街と町会の両輪で、地域を元気にすることが大切だと考えています。



代表取締役
堀江 新三

小売業(たばこ・その他の小売)

山崎商店 お客様第一を掲げる、天保年間創業のたばこ店

創業

179年

創業：1838（天保9）年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区南品川1-7-23
電話番号：03-3471-8059

代表者：山崎 政美
従業員数：2名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標



4代目
山崎 政美

言われる前に「いつもの」を差し出す心遣い

近年は喫煙者が減り、売上も落ちました。その中でとにかくお客様第一の工夫を続けています。例えば顔と銘柄を覚えること。お客様が来たら何も言う前に「いつもの」を出し、お釣りも先に用意してお待たせしません。さらに明るく会話するといった昔ながらの接客を大切にしています。

我が社の 百年譚

明治時代の鑑札が残る老舗たばこ店 お客様のため元日以外は店を開ける

明治時代にたばこの仕入れと販売を専売局から許可された証である、「煙草仕入鑑札」と「煙草出売鑑札」の木札が残っています。当社が創業したのは江戸時代の天保年間で、タバコの葉を仕入れて職人が刻みたばこを製造し、販売していました。戦時中、空襲による街の延焼が広がるのを防ぐという名目で建物の強制疎開が行われ、うちの店舗兼住宅も取り壊されました。しかし戦後すぐ先代である父が土地を買って店を再開。物が無い時代に急ごしらえした木造平屋で商売を続け、35年前に現店舗に建て直しました。たばこは吸いたい時にないと困る物ですから、お客様の声で閉店時間を伸ばし、今は1年で3日しか休まず、朝7時から夜9時まで営業しています。もう少し私の代を続けて、息子が定年になったら継いでもらおうと考えています。

生活関連サービス業(遊漁船)

有限会社三河屋 「ここに任せれば安心」といわれる信用を頂く

創業

173年

創業：1844（天保15）年
本社所在地：東京都品川区東品川1-1-14
電話番号：03-3471-3454

代表者：代表取締役社長 山田 廣吉
従業員数：8名
URL：<http://www.funayado-mikawaya.com/>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標



5代目 代表取締役
社長
山田 廣吉

漁場の減少に際して屋形船を始めた

代々、漁や釣り船で生計を立てていましたが、昭和40年代までに品川沖の海が埋め立てられて漁場が減り、それだけでは成り立たなくなってきました。転機になったのはバブル期です。その頃に5代目を継いだ私が屋形船を始め、時代のニーズに合ったこともあり、大盛況でした。

我が社の 百年譚

江戸前の漁師として創業 心からお客様に尽くす屋形船

創業は1844（天保15）年。屋号の由来は、初代が三河出身だからです。お台場に砲台を作る手伝いに駆り出された後、漁師としてこの地に居ついたそうです。それからは代々、漁や釣り船を家業にしてきました。バブル期に屋形船を始め、当時は広告宣伝なしでも次々とお客様が来ました。料理の材料や酒はすべて商店街で仕入れていましたので、この地域一帯が潤いました。料理は活け物の魚介を中心にした素朴なものです。私たちは漁師ですので、魚のことはよくわかります。料理人を雇わない代わりに素材にお金をかけ、質にこだわっています。また、人材教育にも力を入れています。うわべだけでなく、心からお客様に尽くすサービスのできるスタッフを育てることが、この三河屋の「看板」を残していくことにつながると考えています。

小売業(和菓子製造小売)

枿翁軒 地道に歩んできたからこそ、今がある

創業

168年

創業：1849(嘉永2)年
本社所在地：東京都品川区北品川1-2-8
電話番号：03-3471-3385

代表者：岩瀬 吉二郎
従業員数：2名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



6代目
岩瀬 吉二郎

戦災から復興した5代目の心意気

一番の危機は戦争でした。5代目店主だった父の義治は出征し、材料になる物資もなく、空襲で店舗兼住宅が焼失しました。それでもみな生き残り、父も無事に戦地から引き揚げてきました。父は「代々続いた店を途絶えさせられない」と店を建て直し、商売を再開。見事にのれんを守りました。

我が社の
百年譚

嘉永2年に東海道品川宿で創業 四季折々の菓子を毎日手作り

黒船来航以前の1849(嘉永2)年に初代・栄吉が創業しました。大いに賑わっていた東海道品川宿の中でも江戸側の端にあり、茶店として長らく花柳界をお得意様にしていたそうです。昭和に入り戦災で店が焼けてしまいましたが復興し、その後は地道に商売を続けてきました。私は子どもの頃から店の手伝いを続けていましたが、40年前に父がなくなり、店を継ぎました。バブルの頃にはビルへの建て替えなどの誘いがありましたが、全て断りました。店を大きくしようとは考えず、真っ当な菓子を作ってお客様に喜んでいただくことを良しとしています。82歳になった今でも、上質な上新粉を使った焼き団子をはじめ、四季折々の和菓子を毎日手作りしています。まちの風景が変わっても、変わらない家伝の味を今に伝えています。

中小企業

建設業(改修・改装工事)

ヤマギシリフォーム工業株式会社

世界一の総合
改修工事業者
を目指して

創業

164年

創業：1853(嘉永6)年
資本金：1億円
本社所在地：東京都品川区東品川1-2-5
リバーサイド品川港南ビル3F
電話番号：03-3474-2900

代表者：代表取締役 山岸 大輔
従業員数：124名
売上高：60億円 *2016年3月現在
URL：http://www.ymgs.co.jp/



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



6代目 代表取締役
山岸 大輔

業績悪化で体質改善の機運が生まれた

バブル崩壊によりゼネコンからの発注が減り、業績が悪化。その危機を救ったのが、戦後すぐからお付き合いのあった米軍の業務で、大切に取引を続けてきたことが実を結んだのです。この時の教訓もあり、ゼネコン頼りの体質を変えようという機運が生まれ、現在に活かされています。

我が社の
百年譚

ペンキ塗装から集合住宅改修工事へ 歴代経営者たちの先見の明が奏功

創業は嘉永年間です。山岸家初代の「塗安」は漆塗りの職人で、大名の調度品などを手がけていました。その長男の兼吉が当時は珍しかったペンキ塗装に注目。兼吉の長男である山岸喜太郎もペンキ塗装を学び、明治後期から大正始めにかけて、宮内庁や国鉄の諸工事に携わりました。喜太郎は1917(大正6)年、北品川に山岸塗工店を創立し、戦後の1947(昭和22)年には山岸塗装工業株式会社に改組しました。1960年代以降、集合住宅が数多く建てられる中、4代目の嘉一は集合住宅の改修という新たな分野に参入。塗装事業を柱にしながら改修事業を増やし、業績を拡大しました。2001年には現社名に変更。現在の業務はほぼ集合住宅の改修工事で、6割ほどが元請けです。今後は、公共施設の改修なども視野に入れ、さらなる事業展開を考えています。

飲食サービス業(そば会席店)

有限会社吉田家

質に徹底的にこだわることで
差別化を図る



創業
161年

創業：1856 (安政3)年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区東大井2-15-13
電話番号：03-3763-5903

代表者：代表取締役 池田 耕治
従業員数：9人
URL：http://www.soba-yoshidaya.com//



老舗こそ、時代のニーズに敏感に
なり変化を恐れない姿勢を

もともとこの店は、鮫洲にあった吉田家の支店でした。しかし跡取りがなく、私の祖父が4代目として大正元年に店を譲り受けました。5代目の父の代には近所に事業所が増え、そば屋よりも定食屋の趣が強いメニュー構成になりました。出前も多く手がけ、お客さんのニーズにあっていたので売上もありました。私の代になってそばの質を追求し、「わざわざ足を運んででも食べたい」というそばを目指しました。1983 (昭和58) 年には座敷や中庭を設け、和食の料理人を雇用して会席料理を楽しめるようにしました。大手ができないような細かな気遣いを欠かさず、職人として真つ当な仕事を続けたいと生き残れないと思いますが、老舗であるからこそ時代のニーズに敏感になり、変化を恐れない姿勢を持つべきだと私は考えています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



6代目
池田 耕治

味の価値を高めることを優先

1979 (昭和54) 年に私が継ぎ、そば屋らしい店構えに建て替えると、売上が落ち込みました。店構えとメニューがマッチしていなかったのです。そこで、そばを中心に据えて質にこだわり、価格を上げてでも最高の材料を使うことにしました。すると、1年ほどで盛り返し、軌道に乗りました。

建設業(造園工事)

株式会社東海造園

地域に根ざし、
造園文化を伝承する



創業
161年

創業：1856年 (安政3年)
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区南品川4-17-7
電話番号：03-3474-5303

代表者：代表取締役 野村 脩
従業員数：6名



時代の変化とともに
磨き抜かれた造園技術

初代・野村仁左衛門が目黒で植木屋をしていたのが始まりです。明治時代に、品川の東海寺やゼームス坂の由来であるJ・M・ジェームス氏の屋敷の庭を管理するため現在の場所に店を移しました。3代目の祖父の時代には戦争による食料不足で庭を畑にする家が多く、大変な思いをしたと聞いています。戦後は復興の波に乗り多忙で、メキシコ大使館の庭造りを依頼された際には4代目とともに知恵を絞ったそうです。現在は、地域の寺や個人庭の造園・管理が主な仕事です。祭りの御神酒所前の飾り付けや地域の石碑造りのお手伝いもさせていただいています。技術の伝承と人材の育成を心がけ、日本に由来からある竹材などを使用し、心に潤いを与える庭造りを目指して日々精進しています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目代表取締役
野村 脩

人とのつながりを大切に

終戦で仕事が途絶えた時期、祖父たち植木職人は造園組合をつくり、進駐軍家族住宅の庭の管理や、共同で材料を仕入れることで困難を乗り切ったそうです。これは、人とつながることで、個人ではできない仕事をやり遂げ、他国に日本の庭園文化を伝える結果につながっています。

小売業(履物小売)

丸屋履物店 見返りを求めないのが「粋」というもの



創業

152年

創業：1865（慶応元）年
本社所在地：東京都品川区北品川2-3-7
電話番号：03-3471-3964

代表者：代表取締役 榎本 準一
従業員数：2名
URL：<https://www.getaya.org/>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目 代表取締役
榎本 準一

技術喪失の危機に備える努力を続ける

近年、和装履物業界全体の高齢化が進んでいます。特に問題なのは、跡継ぎのいない職人が引退して技術が途絶え、花緒などの材料が手に入らなくなることです。そんな危機に備えるため、6代目の息子とともに職人の技術を受け継ぎ、自力でできることは自力でこなせるように努力しています。

我が社の
百年譚

慶応元年創業の和装履物店 江戸の粋を体現した履物を今に伝える

立会川で履物屋をしていた本家から分かれ、この地に店を構えたのが1865（慶応元）年です。榎本つるが創業者で、私で5代目になります。1958（昭和33）年に「赤線」が廃止になるまで、一般客はもとより、品川の遊郭が代々のお得意様でした。私が子どもの頃のこの界限は、店の前の通りを渡れないほどの人どおりで賑わっていて、履物屋も10軒ほどありました。今残っているのは当店だけで、息子の英臣が6代目となり、新しい試みも始めています。10年ほど前にホームページを開設し、当店の考え方や、さまざまな商品を紹介しています。ただ、実際に店に来ていただいて、お客様の足に合わせて花緒をすげるという基本は崩していません。江戸前のすげ方をした履物をととして、江戸の粋を知っていただければと思います。

中小企業

卸売業・小売業(海藻その他の販売)

有限会社河邊商店 地域の皆様も卸先様も 同じ大切なお客様



創業

152年

創業：1865（慶應元）年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区小山3-7-17
電話番号：03-3781-4924

代表者：代表取締役 河邊 克己
従業員数：18名
売上高：5億3,000万円
URL：<http://kawabe-konbu.crayonsite.com/>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
河邊 克己

信用できる人、信用できる商品

当社の使命は、昆布をはじめとした海藻類を、安全かつ安心できる商品として納品することです。そのために必要なのは「信用」。関わるすべての人たちから信用していただける人であること、信用していただける商品を提供することが、当社の事業存続に不可欠なことだと考えています。

我が社の
百年譚

時代の変化に合わせた 営業スタイルで事業を継承

江戸時代、昆布は幕府に一時販売規制されていました。規制が解かれた後、創業者の山久保利兵衛は、家業だった昆布加工に精通していたことから、現在の三重県から江戸に招かれ、1865年、江東区で刻み昆布加工業を始めます。当時、中国に昆布を輸出していたことから、南京昆布屋と呼ばれていました。2代目の重次郎が河邊に改姓し、おぼろ昆布の加工販売を開始。関東大震災で被災し、品川区に移住してからも、おぼろ昆布で事業をつなぎ、戦後、3代目の利雄が有限会社河邊商店を設立し、卸販売に徹底。4代目が卸売市場や大手メーカー向けの営業部門株式会社カワシヨクを設立し、現在に至ります。一方で、地元向けの小売業も大切にしており、最近ではSNSで情報を発信するなど、若者の昆布ファン獲得にも力を入れています。

建設業(リフォーム・修理)

株式会社幸阪

畳製造から時代に合わせて内装業へ

創業

140年

創業：1877(明治10)年
資本金：1,000万円
本社所在地：東京都品川区西品川2-24-10
電話番号：03-3491-2032

代表者：代表取締役社長 小野 泰
従業員数：3名



我が社の
百年譚

「街の何でも屋」の精神を引き継ぐ

当社は、三重県松阪市出身の初代・幸阪岩松が、東京で畳屋を興したのが始まりです。畳職人として、多くの仕事を手掛けていたと聞いています。しかし、時代とともに住宅は欧米の様式を取り入れるようになり、一般家庭は畳を変えず、その上から安いじゅうたんを敷くようになっていきました。そこで、事業内容を畳屋からリフォーム・修理などの内装業へと広げたのが4代目の保義です。現在の事業は、保義が築いた基盤の上に成り立っていると言っても過言ではありません。店を全面ガラス張りにし、通りかかった人が、外からでも店内に社員がいるか分かるように工夫したのも保義です。保義が大切にしたい、内装に関わるどんな困り事も気軽に相談できる「街の何でも屋」の精神を、これからも引き継いでいきたいと考えています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目 代表取締役社長
小野 泰

4代目の功績で会社が成長

4代目の保義が、さまざまな挑戦をして当社を軌道に乗せました。法人化や社名の変更、自社ビルの建て替えや社員の増員、営業活動への注力など、時代に合わせた努力や工夫で年間売上高を増やしました。今の当社があるのは、変化を恐れずまい進した保義の功績によるところが大きいのです。

小売業(文房具・事務用機器小売)

株式会社オカジマ

戦後復興を担った企業を
小売店として下支え

創業

135年

創業：1882(明治15)年
資本金：2000万円
本社所在地：東京都品川区大崎5-6-13
電話番号：03-3492-5547

代表者：代表取締役 笹本 三樹雄
従業員数：8名
URL：<http://www.e-okajima.com/>



我が社の
百年譚

戦前、戦後、今なお変わらぬ
顔の見える営業スタイル

初代の岡島幸次郎が、現在の品川区豊町で紙漉きをしたのが、当社の創業になります。その後しばらくは、和紙製造業を営んでいましたが、戦後、大崎広小路に店を構え、文具類の卸、小売業を開始しました。その当時、店の周辺には、東京通信工業株式会社(現・ソニー株式会社)様をはじめとした複数の大企業が社屋を構えており、各社が業績を伸ばしていきなかつたので、社員の皆様がお使いになる文具や事務用品の需要も増えていったのです。そういう意味では、企業の皆様と共に、当社も成長させていただいたといえます。近年においては、事業規模を縮小していますが、これまで通り、顔の見える営業が大事であるとの考えに変わりはありません。関わる全ての皆様に喜んでいただけるよう、今後も尽力していく考えです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
笹本三樹雄

万人を平等に大切にすること

戦後、当社を継いだ2代目の栄司は体が弱かったため、実務においては妻の愛子が采配を振っていたようです。愛子は、商店街の皆さん、組合の皆さん、問屋やメーカーの皆さんを、分け隔てなく大事にした人でした。私自身も「人を大事にすること」は営業の根幹だと思っています。

卸売・小売業（建築金物販売）

株式会社星野金物

商品を売るためには、
まず商品知識を売りなさい



創業

135年

創業：1882（明治15）年
資本金：1,000万円
本社所在地：東京都品川区北品川1-28-8
電話番号：03-3471-4461（代表）

代表者：代表取締役 星野 俊司
従業員数：6名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目
星野 俊司

良い商品を安く早く納めて信頼を得る

建築金物の需要は安定していますが、近年、価格競争が激しくなりました。当社は「良い商品を薄利で売る」「工事現場の要望に応じて早く商品を納める」ことを徹底した上で、お客様の要望にコツコツと応え続けています。そうして築いた信頼関係が、生き残るための支えになっています。

我が社の
百年譚

昭和初期築の店舗は今も現役 幾度の好不況の波を乗り越えた金物店

私の曾祖父にあたる星野巳之助が1882（明治15）年に創業しました。家庭用のほか、当時の品川らしく、遊郭や漁師たちが使う金物を手がけていたようです。なお現店舗は昭和初期に改築したもので、震災や戦災の被害を受けず、当時の姿をとどめています。戦後の物不足の時期は大変で、3代目で父の幸雄がリアカーを引き、商品になる物を毎日探し回ったそうです。そんな先代からは「商品売るためには、商品知識をまず売りなさい」と教えられました。お客様の相談に乗って、最適な商品を勧められることが小売店にとって大切だからです。以後、高度経済成長とオイルショック、バブル期の好況とその後の不況といった景気の波がありましたが、職人からゼネコンまでさまざまなお客様に支えられながら歴史を刻んでいます。

中小企業

小売業（呉服・和装小物小売）

株式会社尾張屋

伝統を守るだけでなく、
時代に合わせることも必要



創業

127年

創業：1890（明治23）年
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区北品川2-4-21
電話番号：03-3471-3748

代表者：代表取締役 大橋 登
従業員数：3名
URL：<http://www008.upp.so-net.ne.jp/kimono-owariya/>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目
大橋 登

代々、リスク管理を肝に銘じて

創業から昭和初期までに2回、火事に遭って店が全焼しました。しかし、2代目の登羅（とら）が当時はまだ珍しかった火災保険に入っていたため、多額の支給金がありました。皮肉なことに火事で店が大きくなったのです。以後、代々、リスク管理の大切さを肝に銘じて経営に当たっています。

我が社の
百年譚

恐慌・震災・戦災でも右肩上がり バブル後は特注品を中心にして 差別化

明治23年に呉服店を始めた大橋春三郎が30代で亡くなり、妻の登羅が2代目として事業を引き継ぎました。この登羅こそ、最も長く事業主を務め、かつ成功し、尾張屋の礎を築いた人物です。以来、恐慌や震災、戦災といった歴史の教科書に載るような事態に遭っても、我が社は右肩上がりの業績を残してきました。戦後は3代目になる私の祖父と祖母で事業を再開。続く4代目の父・誠も昭和後半から平成にかけて安定した経営を続けました。しかしバブル崩壊後、売上が大きく下がりました。そこで今は、日本製の素材にこだわったオーダーメイドの着物を仕立てて売ること、差別化を図っています。6代目になる予定の息子にも恵まれ、伝統をただ守るだけでなく、これからの時代を見据えた経営を目指しています。

卸売業(石鹼・洗剤・雑貨販売)

栗山商事株式会社

元卸問屋として
トップメーカーとともに歩む



創業
127年

創業：1890(明治23)年
資本金：3250万円
本社所在地：東京都品川区南品川1-9-12
電話番号：03-3472-6161

代表者：代表取締役 栗山 一彦
従業員数：4名



創業者は元・海軍将校
石鹼・洗剤類の元卸問屋として歴史を刻む

海軍の将校だった栗山善太郎が、退役後の1890(明治23)年に創業しました。当初は海軍への物資供給および雑貨の販売を事業としていました。初代は同じ頃に創業した長瀬商店(花王株式会社の前身)や、ライオン歯磨株式会社およびライオン油脂株式会社(ともにライオン株式会社の前身)などと取引を続け、石鹼・洗剤の元卸問屋として事業を成長させました。その後、2代目の栗山貞次、3代目の栗山誠一と代を重ねる中で、この業界の卸売の变革に対応してきました。やがてフマキラー株式会社、アース製薬株式会社といった企業とも取引するようになり、現在は4代目の私が代表取締役を務め、事業を続けています。

上丸写真 創業者 栗山善太郎

左写真 創業当時の社屋と3代目 栗山誠一(左)

卸売・小売業(紙製品および文房具その他の販売)

株式会社フクイ

雑貨屋から始まった
旧東海道沿いの文具店



創業
127年

創業：1890(明治23)年
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区北品川2-30-27
電話番号：03-3471-5191

代表者：代表取締役 福井 昌代
従業員数：2名
売上高：3,000万円
URL：<http://www.bungu-shop.co.jp/>



寺の総代を務めることで
地域との絆を築いた先代たち

初代幸三郎は、旧東海道沿いに雑貨屋を開き、商売を開始。2代目の柳己知が紙や文具を扱い始め、3代目治平が店の基盤を築き、4代目速雄が事業を軌道に乗せたといえます。なお、事業承継の背景には、2代目から4代目までが寺の総代を務め、地域の皆さんと密につながってきたことがあると思われます。2代目が紙を扱っていたのも、近辺に寺が多く、それに付随して花屋および和菓子屋の数も多く、いずれも商品の包装に紙を使っていたためではないかと推測されています。近年においては、物流そのものが大きく変化し、個人商店と顧客が密に関わる機会はいまや減ってしまいましたが、地域住民の利便性を高めるような存在として、商店街の皆さんと協力し合いながら生き残っていききたい考えです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標

土台にあるのは家族の団結力

戦争で満州に出兵していた3代目の治平に代わり、店を守ったのは、治平の親、兄弟、妻といった家族でした。家族の団結力が店を守ったといっても過言ではありません。戦後は店に戻り、「誠実な経営、質素な暮らし」を重んじていました。これは今なお、当社で大事にしていることです。

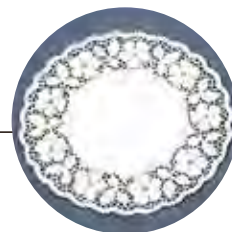


5代目社長代行
福井 信

製造業(紙食器製造販売)

株式会社泰正

会社は公共のもの。
地域社会とのつながりを大切に



創業

126年

創業：1891(明治24)年
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区戸越1-25-20
電話番号：03-3783-2111

代表者：代表取締役 石川 礼央
従業員数：10人
URL：http://www.e-taisei.co.jp/



我が社の
百年譚

日本の西洋料理の歴史とともに歩む
職人の手作りで質と安全を担保

当社は、明治初期に開店した日本初の西洋料理店「築地精養軒」の創業者・北村重威氏の指導により、1891(明治24)年に石川禮興が起こしました。西洋料理の付属紙器を製造する日本で初めての事業所として業績を重ね、1919(大正8)年には2代目・禮隆が合資会社石川商店を設立しました。1931(昭和6)年には現地に工場を移転。戦災で工場が全焼して一時解散したものの、3代目・禮信が事業を再開。高度経済成長期に洋菓子やレストランなどが一般庶民にも広がるにつれ、売上を伸ばしました。1952(昭和27)年には株式会社とし、1971(昭和46)年には社名を現在の「泰正」に。当社は品質と安全性にこだわる伝統を現在まで引き継いでおります。その品質を評価していただき、大手の格式あるホテルなどと取引を続けています。

中小企業

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目 代表取締役
石川 礼央

空襲による工場焼失からの再出発

昭和20年8月、当地は激しい空襲に遭い、焼け野原となりました。当社の工場も全焼し、一時事業解散に追い込まれました。2年後、3代目で私の父の石川禮信が事業の再開を決意。焼け跡から機械を掘り出して修理し、石川商店の名前を覚えてくださるお客様を頼りに仕事を始めました。

卸売業・建設業(木材・住宅資材販売および建設業)

株式会社池田元一商店

創業の地で今なお
続く「木の商い」



創業

125年

創業：1892(明治25)年
資本金：2000万円
本社所在地：東京都品川区戸越1-25-3
電話番号：03-3494-1171

代表者：代表取締役 池田 浩康
従業員数：17名
URL：http://www.ikedamotoichi.jp/



我が社の
百年譚

桶づくりから住まいづくりへ

初代の熊吉は桶づくりの職人で、桶以外にも、近くにあった製薬所に薬樽を納めたりしながら生計を立てていました。2代目の一は、桶の材料や建築用の木材を販売。戦後、3代目の元二になって、建築用資材が商いの中心になりました。現在では、3代目が築いた商いに加え、住宅リフォーム事業も手がけています。「木の商い」であることは一貫していますが、1世紀以上の時間をかけて、扱う品物は桶から住まいへと変化しました。この地でずっと事業を続けてこられたのは、先代達の努力もさることながら、やはり人とのつながりが大きいと思われます。今も当社では地域の活動やイベントに積極的に協力しながら、地域や社会に貢献できる事業を心がけています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
池田 浩康

誠実に、そして冷静に、前向きに

戦争で多くを失い、先が見えない中での苦労はたくさんあったようです。それでも、これまで事業を継続できたのは、誠実に本業を充実させたこと、そして冷静に物事を見て、前に向かった決断をしてきたことにあると思います。

小売業(和菓子製造小売)

有限会社御菓子司木村家

老舗和菓子屋として、
材料は最高級のを



創業
125年

創業：1892(明治25)年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区北品川2-9-23
電話番号：03-3471-3762

代表者：代表取締役 木村 眞基
従業員数：4名
売上高：2,000万円



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
木村 眞基

店主不在の危機を母と職人の力で乗り切った

3代目である父が考案した「大福」のヒットで順調に商売を続けていました。しかし、大変忙しくなったことで、体が弱かった父が体調を崩して入院。しかし、父の指示の伝達役をこなした母と、その指示を忠実に実践した菓子職人の技量で危機を乗り越えることができました。

我が社の
百年譚

人の縁で軌道に乗せた2代目、看板商品を生み出した3代目

初代の木村誠夫がこの地で創業し、腕の良い職人として盛業していました。1度目の転機は2代目の鶴松の時です。15歳の頃に父・誠夫を亡くし、折からの不況などもあって大変苦労しました。時がたって和菓子組合の長になり、関係者の仲人を務める機会が増え、冠婚葬祭の菓子などの注文が安定して入るようになりました。2度目の転機は1963(昭和38)年頃。3代目の桂一が、現在も看板商品になっている「大福」を誕生させました。修業先の名店2軒で学んだ知識を掛け合わせたその商品は、大納言小豆のつぶあんにもっちりとした皮、そこに「青えんどう」を散りばめた豆大福。しかし3代目は体調を崩し、私が22歳の時に4代目として店を継ぎました。以来、材料は手に入りうる最高の物にこだわりながら、弟と店を守っています。

建設業(水回り工事・修理)

有限会社富田屋工業所

日本橋の大店から
のれん分けした井戸屋



創業
123年

創業：1894(明治27)年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区南品川2-10-5
電話番号：03-3471-7994

代表者：代表取締役 梶ヶ谷 治代
従業員数：3名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
梶ヶ谷 治代

同業者とお客様の支えあってこそ

マンションが急増し、施工時間や騒音など難しい面が増えました。限られた時間で多くの技術を要する現場も、先代から変わらず支えてくださる同業者や、作業を信頼して任せてくださるお客様のおかげで乗り越えられました。今後は支えられるだけでなく、支えることもできるよう精進します。

我が社の
百年譚

今でも続く、昔ながらの井戸のメンテナンス

2代目の祖父からは、日本橋の井戸屋から3軒のうち1軒のれん分けをもらったのが当店の始まりだと聞いています。昔はどの家も井戸を使っていたから、くみ上げに使うポンプの修理や点検が専門でした。水道管が整備された現在では、蛇口や排水溝の修理、配管などが中心ですが、この辺りはお寺が多く、ほとんどが昔ながらの井戸を残しています。お盆やお彼岸には、お墓参りに来た方々にたくさん利用されているので、シーズンに入る前は、メンテナンスや修理の依頼が多いですね。また、最近では災害の備えとして改めて井戸が注目されており、設置の相談を受けることも少なくありません。今後も、当店が代々引き継いできた歴史を汚さぬよう、心を込めた丁寧な仕事を心掛けます。それがきっと、よい形で返ってくると信じています。

小売業(せんべい製造小売)

せんべい処あきおか

素朴な味だからこそ
良い原材料にこだわる



創業
122年

創業：1895（明治28）年
本社所在地：東京都品川区北品川2-2-8
電話番号：03-3471-4325

代表者：代表取締役 秋岡 信男
従業員数：2名



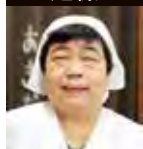
我が社の
百年譚

かつての海苔の名産地・品川で
初代考案の品川巻を受け継ぐ

1895（明治28）年に初代・秋岡松蔵がこの地で創業しました。当時の品川一帯は海苔の名産地で、初代は海苔漁師から仕入れた海苔を棒状のあられに巻いた「品川巻」を売り出しました。これは今でも当店の看板商品です。戦中から戦後は2代目の信蔵が継いでいましたが、原料の米が手に入らず、店を続けられない状況でした。生活のために別の仕事でのぎ、米が出回るようになると店を再開しました。昭和30年代に信蔵が若くして亡くなるという危機を迎えましたが、妻・志づゑと家族の奮闘で乗り越え、3代目の信男が10代で店を継ぎました。昭和40年代に私が嫁いできてからは二人で力を合わせて商売を続けています。当店は一貫して国内産米にこだわり、信男が体調を崩してしまった今も、代々受け継いできた味を私が守っています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



3代目代理
秋岡 久良子

2代目急逝の危機を家族の力で乗り越えた

昭和30年代、2代目の秋岡信蔵が若くして亡くなりました。その危機を救ったのが妻・志づゑと家族でした。志づゑが中心になり、まだ健在だった初代・松蔵の尽力のもと、子どもたちを含めた家族総出で店を守ったのです。数年後、10代ながら店を手伝っていた信男が店を承継。現在に至ります。

運輸業(一般貨物自動車運送)

株式会社小野運送店

お客様の気持ちを運ぶ



創業
121年

創業：1896（明治29）年
資本金：4992万円
本社所在地：東京都品川区南品川4-2-33
電話番号：03-3474-8778

代表者：代表取締役社長 小野 正彦
従業員数：270名
売上高：35億円 *2017年3月末現在
URL：<http://www.ono-unso.co.jp/>



我が社の
百年譚

馬力運送からトラック運送へ
現在は産業廃棄物収集運搬事業も手がける

明治初めに愛知県から上京した創業者・小野為吉は、土木建築業の会社で馬方として重宝され、1896（明治29）年に独立して馬力運送業を起業しました。順調に業績を上げ、品川界隈で有数の馬力屋となりました。1919（大正8）年には甥の貞義が2代目社長に。貞義は、戦中の激動の時代を乗り切り、仕事量が減った戦後の混乱期をしのぎ、馬力運送からトラック運送へという大きな構造転換にも乗り遅れることなく、今日の安定経営の基礎を築いた功労者です。その後も当社は、隣接する日本ペイント様関連の運送を専門的に手がけ、発展してきました。80年代半ばからは産業廃棄物収集運搬事業も手がけるようになり、今日では運輸事業と並ぶ柱に育てました。同事業は社会的貢献度が高く、当社の新たな道を拓いたと高く評価しています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



7代目 代表取締役
社長
小野 正彦

価格競争を闘い抜く、会社の体力

「物流2法」が制定された90年代初めが最大の危機でした。規制緩和で急増した新規参入業者のダンピングによって運賃価格が崩れ、売上減を余儀なくされました。それでも価格競争を辛抱強く闘い、仕事を失わずに乗り越えられたのは、先代たちが会社を鍛え、体力を蓄えてきたおかげだと思います。

卸売業(陶磁器・ガラス器販売)

株式会社岩元屋商店

一器一会(いっきいちえ)の
出会いを



創業
121年

創業：1896(明治29)年
本社所在地：東京都品川区南品川2-12-5
電話番号：03-3471-7822

代表者：代表取締役 赤沼 祐一
従業員数：2名
URL：<http://www2.odn.ne.jp/~hak99670/index.htm>



瀬戸物の小売から卸へと転向
現在は業務用食器を幅広く扱う

1896(明治29)年に初代の赤沼定一が現・山口県岩国市から上京し、この南品川で瀬戸物の小売店を開業したのが始まりです。屋号の由来は岩国の「岩」と、同地などを治めた戦国大名・毛利元就の「元」だと伝え聞いています。小売をしている頃は店先にたくさんの食器や土瓶、火鉢などを並べて販売していましたが、徐々に卸売に転向し、そば屋や中華料理屋に食器類を卸すようになりました。かつては大晦日ともなると、一晩中、年越しそばの丼を配達して回っていたそうです。平成3年に私が店を継いで4代目となり、現在は和食器全般、漆器、ガラスの器など業務用食器を専門に取り扱っています。そのほか、東京都庁、都内特別区の関連施設に各種食器、厨房用品、荒物雑貨等を納品するなど、公的機関も顧客にしています。



製造業(ステンレスバルブ製造)

平和バルブ工業株式会社

時代とニーズに
合ったタンクバルブ



創業
118年

創業：1899(明治32)年
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区西五反田5-2-11
電話番号：03-3493-5855(代表)

代表者：代表取締役 平林 健一
従業員数：11名
URL：<http://www.heiwa-valve.co.jp/>



いつの時代も新しい発想で
バルブづくりに向き合う

当社は、初代の平林秀吉が十代で工場に弟子入りし、技術を習得して創業した事業所です。旋盤(旋削加工を行う工作機械)が手動だった時代に、ガスエンジンを動力にした旋盤でバルブをつくり注目を集めました。2代目雄の時代には、第二次世界大戦が勃発し、海軍監督工場として、駆逐艦などに使われるバルブを製造。企業合同で栃木県佐野市に工場を設立しましたが、終戦を迎え、戦争で焼け野原と化した現在の場所に工場を構えたのです。鉄製のバルブしかなかった当時、ある顧客からの依頼でつくようになったのがステンレス製のバルブでした。これが戦後の当社を支えたことは言うまでもありません。3代目英一の時代には、ステンレスのタンクバルブをつくるようになり、これが現在の主力製品となっています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標

かなめ
要は先代の教えと迅速な対応力



3代目 前代表取締役
平林 英一

現在、当社は4代目の健一に代替わりしていますが、2代目の「人に後ろ指を指されるようなことはしてはいけない」との教えは、変わることなく受け継がれています。また、お客様の多様なご要望に対しては、少人数だからこそ可能な軽いフットワークで対応させていただいております。

卸売・小売業(食肉卸売・小売)

有限会社櫻井精肉店

後継者に恵まれ、
三代そろって店に立つ



創業
117年

創業：1900(明治33)年
本社所在地：東京都品川区南品川4-18-14
電話番号：03-3471-9067

代表者：代表取締役社長 染谷 恵太
従業員数：3名
URL：<http://sakuraiseinikuten.minami-shinagawa.com/>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目 代表取締役
社長
染谷 恵太

原発事故の風評被害が一番の危機

2011年の福島原発事故後の2年間ほど、福島県産に限らず、牛肉が全然売れない時期が続きました。風評被害によるものですが、私が知る中で一番の危機といえます。それでも、3代続けてひいきにしてくださるような常連客に支えられ、なんとか乗り切ることができました。



ゼームス坂通りで117年 ITを活用して新規顧客を獲得

創業は1900(明治33)年ですが、当初は大崎にあったと場から少量の肉を仕入れ、たらいに入れて軒先で売っていた程度と聞いています。明治30年代ですから、肉食がちょうど庶民に受け入れられ始めた頃で、そこまでの需要がなかったのでしょう。店舗を構えて本格的に始めたのは、2代目の櫻井勝次郎、3代目の櫻井文子の頃。往時のゼームス坂通りは賑わいのある商店街で、私がここで働きはじめた40年ほど前でも、坂上まで商店が軒を連ね、魚屋だけで4軒あるほどでした。後継不足で店を閉めるところも多いですが、うちは跡継ぎに恵まれ、6代目の息子に加えて孫も店を手伝ってくれています。ホームページやフェイスブック、ツイッターも開設し、おすすめ情報などを配信することで、新しいお客さんが増えたように思います。

中小企業

小売業(印章小売製造)

有限会社青波堂木庭印房

海が間近だった
品川宿の名残が店名に



創業
110年

開校：1907(明治40)年
資本金：300万円
本社所在地：東京都品川区南品川2-11-5
電話番号：03-3471-8585

代表者：代表取締役 木庭 圭一郎
従業員数：1名
URL：<http://tokyohanko.jp/kbi.html>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目 代表取締役
木庭 圭一郎

信頼と地域のつながりという先代の遺産

私がこの仕事に就いて6年目に、先代である父が体調を崩し、急遽継ぐことになりました。まだ独り立ちできていない時分、昔からのお得意様に助けられながら、目の前の仕事をこなしていきましました。父が築いた職人としての信頼や地域のつながりのおかげで、なんとかスタートを切れました。



時代の変化に負けず 新たな商材で新規顧客開拓を目指す

当店は旧東海道沿いの商店街(品川宿場通り南会)にあります。青波堂(せいはどう)という名前は、かつては街道目前まで海だったことに由来します。創業は1907(明治40)年で、当店の初代は木庭家ではなかったようなのですが、2代目として私の祖父の木庭繁太郎が店を継ぎ、以降は木庭家が世襲しています。3代目には祖父の長男の鍵一郎、続いて私の父の等が4代目になりました。父は町会の役員として、荏原神社のお祭りなどの地域行事を取り仕切っていましたので、地元の人と深いつながりがありました。結果としてそれが仕事にもつながっていたと思います。近年は、OA機器の急速な発展と普及により、ゴム印類全般の受注が減少するなど厳しい状況にあります。それでも、私の代になってからは印章の他に、書道などで使う落款印や蔵書印などの篆刻を手がけ始め、新たな顧客の開拓に励んでいます。

小売業(メガネ・時計・ジュエリー製品小売)

株式会社東京堂

武蔵小山商店街の黎明期を知る
老舗の眼鏡・宝石・時計店



創業
110年

創業：1907（明治40）年
本社所在地：東京都品川区小山3-24-2
電話番号：03-3781-7312

代表者：代表取締役 島村 篤子
従業員数：6名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



3代目 代表取締役
島村 篤子

隣人たちの協力で火災被害を乗り越えた

1995（平成7）年3月に起きた武蔵小山商店街の火災に巻き込まれ、店舗部分の延焼は免れたものの、消防の放水で水浸しになりました。それでも、多くの部会の皆さまの協力で商品を運び出し、損害を抑えることができました。同年中に店を再開できたのも、商店街のつながりのおかげです。

我が社の
百年譚

初代は伊藤博文お抱えの時計職人
現在は高齢化社会に合った品揃えに

私の祖父である創業者・細谷省三は、伊藤博文お抱えの時計職人でした。品川区西大井（旧・大井伊藤町）にあった伊藤博文邸宅のホールクロック（大型置時計）の修理を任せられ、やがては大井三ツ又に自分の店を構えました。しかし、道路拡張により退去を余儀なくされ、黎明期にあったこの武蔵小山商店街に移転しました。時計が最も売れたのは昭和30年代で、売れすぎて在庫がなくなることもありました。最盛期は時計修理職人を3人雇い、住み込みの従業員も男女合わせて20人以上いました。1995年の火事をきっかけに親から事業承継し、私が社長になりました。高齢化社会になった現在、眼鏡や補聴器などが主力になりました。これは自然なことだと思います。時計も数字が大きくて盤面が見やすいものを中心に置き、高齢者の好みに合わせています。

小売業(米穀類・酒小売)

清水米穀株式会社

店を継いだ者は、
自分が創業者だと思って励め



創業
110年

創業：1907（明治40）年
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区小山3-8-1
電話番号：03-3781-8836

代表者：代表取締役社長 清水 保之
従業員数：4名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
社長
清水 保之

戦争の不幸を乗り越えた、不屈の初代

終戦間際に当時34、5歳だった2代目の清水保一が召集されました。保一は復員することなくシベリアに抑留され、亡くなりました。空襲で蔵以外を焼失したばかりか、跡継ぎをも失った初代・清水新蔵でしたが、不屈の精神で店を立て直し、保一の長男・功雄を3代目に育てあげました。

我が社の
百年譚

先代をただ踏襲するのではなく
時代に合った方針を自身で考える

私の曾祖父である清水新蔵が、1907（明治40）年に当時の荏原郡上目黒で創業しました。新蔵は若かったものの商才に長け、米の仲卸と小売を兼ねていました。しかし関東大震災で被災し、この地に移転。その後、商売はうまくいきましたが、戦争で2代目の保一と店舗を失いました。新蔵は不幸に屈せず再興し、私の父で3代目の功雄に事業を託しました。功雄は、当時はこの辺りにスーパーがなかったので、販売する商品の幅を広げました。私が継いだ平成6年にはスーパーもコンビニもありましたので、あえて米中心に集約しました。しかも、良質な米を生産農家から直接買い付け、販売しています。このように、店を継いだ者自身が時代や社会のニーズに合った経営方針を考え出すうちのやり方は、合理的だと自負しています。